

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

| | | | |
|-----|--|---------|----------|
| 学校名 | 南小岩第二小学校 | 対象学年と人数 | 4年生（78名） |
| 活動名 | すすめ！エコロ人！（総合的な学習の時間） | | |
| 指導者 | 学内指導者：小島雄貴 吉田朋美 学外支援者：えどがわエコセンター大塚留美さん、水上泰輔さん、池田進さん | | |

目標

江戸川区でエコ活動をしている人の思いに触れ、江戸川区のエコに対する取り組みを知ること、自分たちの未来の環境について考え、自分の生活に生かそうとする。

- ごみ問題とエコ活動の必要性
- 環境の保全や資源の有限性に対する理解とそれらの活用
- 食生活を取り巻く社会問題や現状と自分たちの生活とのかかわり

成果

- ①児童は、江戸川区広報課の「えどがわ区民ニュース」の食品ロスのトピックをきっかけにしてエコについて興味をもった。
- ②他の学年の児童や主事にアンケートやインタビューを行い、エコ活動についての情報を集めた。
- ③担任が読書科でエコについて資料を用意したところ、児童は理科で学習した「ツルレイシ」のグリーンカーテンと結び付け、「グリーンカーテンでエコに取り組みたい。」という思いをもった。思いが強まった児童は、自主的に「環境フェア」に参加し、グリーンカーテンについて学んだ。
- ④「グリーンカーテンの作り方が知りたい。」と、児童は国語で学習した「手紙の書き方」、「丁寧な言葉遣い」を活用して、エコセンターの大塚さんに電話で連絡を取り、ゲストティーチャーとしてエコセンターの方々をお呼びすることができ、グリーンカーテンについて詳しく学んだ。
- ⑤学級会では、「グリーンカーテンにするか。」「カーテンを屋根上にしてトンネルにするか。」で意見が分かれ、根拠を示しながら議論をした結果、トンネルにすることに決まった。グリーンプラン推進校としての予算で、トンネルを作るための鉄パイプの枠を設置した。児童は、今年度限りではなく、来年以降も継続して活用することも視野に入れている。
- ⑥児童はグリーンカーテンと同時並行で「節電」や「エコグッズ」を調べたり、社会で学習したごみ問題から「ごみの分別」や「食べ残しゼロ」を呼びかけたりした。その際、パソコンで抽象的な情報を集めるよりも校内を歩き回ってインタビューやアンケートを取ったり、実際に食べ残しや分別状況を見て回ったりして現状把握に努めた。現状をわかりやすくまとめるために算数で学習した「棒グラフ」「折れ線グラフ」だけでなく、5年生で学習する「円グラフ」も児童自ら調べてポスターに取り入れてまとめた。
- ⑦5年生になったら、委員会活動が始まる。児童の振り返りの中には、「美化委員になれば、ごみの分別がもっと進められる。」「保健給食委員になって、食べ残しをゼロにする。」とこれからの自分の生活の仕方を考える児童が多く見られた。
- ⑧ツルレイシの種はとっておき、3年生への「グリーンカーテン引き継ぎ式」を行った。

感想・課題等

児童がエコ活動の必要性を感じ、主体的にエコ活動に取り組むきっかけになった。教師が主導するとどうしてもやらされている感が出てしまうが、グリーンカーテンを提示することで、児童が自主的に活動したり、ゲストティーチャーと関わったりすることでエコを自分事として捉え、日常の活動の変化へとつながったのだと思う。また、実ができたことを喜びながら、自分たちが普段口にしていく食材がどのように作られるのかを学べたことも成果としてあった。さらに、グリーンカーテンから発展して、節電や節水、3Rにも取り組むことができた。今後も継続して活動できるように計画を立てていく。